

2015年12月21日

関係各位

野村ホールディングス株式会社
コード番号8604
東証・名証第一部

アメリカン・センチュリー・インベストメンツ社との戦略的提携 および同社への出資について

野村ホールディングス株式会社(グループCEO:永井浩二、以下「当社」)は、本日、米国の投資顧問会社であるAmerican Century Investments(アメリカン・センチュリー・インベストメンツ、以下「アメリカン・センチュリー」)およびその支配株主であるThe Stowers Institute for Medical Research(ストワーズ・インスティテュート・フォー・メディカル・リサーチ、以下「ストワーズ財団」)と、戦略的提携およびアメリカン・センチュリー持分41%の当社による取得につき合意しましたので、お知らせします。

上記の合意に基づき、当社は100%子会社を通じて、アメリカン・センチュリーの経済的株式持分41%を約10億米ドルで、現在の保有者であるCanadian Imperial Bank of Commerce(カナディアン・インペリアル・バンク・オブ・コマーセ)から取得します。それに伴い、当社の議決権は10.1%となり、11名からなるアメリカン・センチュリーの取締役会に、2名の取締役を指名・派遣する予定です。

なお、本件は、金融当局からの承認などを前提に、2016年6月までに完了する予定です。

この提携により、当社は、国内外の個人のお客様や機関投資家に提供する運用ソリューションを開発するために、アメリカン・センチュリーが有するノウハウを活用することが可能となります。さらに、米国の運用業界で当社のプレゼンスが拡大することにより、ビジネスの多様化を推進しやすくなるなど、大きなメリットを得ることができます。

一方、カンザスシティを拠点とするアメリカン・センチュリーにとって、米国以外の各地域、とくに日本およびアジアにおいて、プレゼンスのある当社と戦略的パートナーとなることは、米国外の顧客に対する運用プロダクトやサービスの展開の強化につながります。

当社とアメリカン・センチュリーは、少数株主出資という枠組みを超えて、両社の資産運用ビジネスをグローバルに拡大していくために、戦略的な協業を進めていきます。

永井グループCEOは、「当社が、米国の資産運用業界で成功を収めてきたアメリカン・センチュリーと長期にわたる戦略的な提携を結ぶことができ、喜ばしく思います。『すべてはお客様のために』という基本観を有する当社と、“Profit With a Purpose(企業の利益を社会に有益な事業として還元する)”との理念を掲げるアメリカン・センチュリーが提携することは、両社の企業価値向上にとり、大変意義深いと考えます。」と述べています。

また、野村アセットマネジメント株式会社の渡邊国夫CEO兼執行役社長は、「我々はアメリカン・センチュリーの経営理念に共感しこれを尊重しています。両社の企業文化や運用に対する考え方、価値観には共通点が多く、今回の戦略的提携は両社の成長に大きく寄与すると確信します。」とコメントしました。

アメリカン・センチュリーのジョナサン・トーマス社長兼CEOは、「当社は野村を戦略的提携先として歓迎します。アジアにおける野村の資産運用ビジネスの強さは、北米での成功を収めたアメリカン・センチュリーのビジネスを補完するでしょう。野村との長期にわたる提携関係を最大限活用し、米国外の顧客に当社の運用能力を提供することによって、米国外でのビジネスの拡大と顧客の多様化を加速することができます。」と述べています。

なお、本件による当社の連結業績に対する影響については、開示すべき状況が発生した場合には速やかに公表します。

<アメリカン・センチュリーについて>

1958年創業の独立系投資顧問会社。機関投資家、企業、個人投資家を顧客として運用サービスを提供している。本拠地は米国ミズーリ州カンザスシティ。米国のほか英国、香港に拠点を持ち、従業員は約1,300人。同社の支配株主であるストワーズ財団は、同社の創業者ジェームズ・E・ストワーズが社会貢献のため1994年に設立した非営利団体。同社からの配当金を活動原資として、約550人の研究者がバイオ医療の研究を行っている。

以上